

コレ、ヤバいんじゃないの?」

「たらしめた方が良くない?」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……」



「はあ はあ うう…クロエちゃんみたいなの可愛い子に舐めてもらえるなんて…最高だよお」

「ぞりやどーも」



「あっ そこ…先の穴を舌先で重点的に…おおっ！ おほおっ！」

「……」

(しっかし、うち結構大胆な事してるよね。 まー、仕事だし客が喜んでるから良いんだけど)

「あっ あっ そんな…き 亀頭だけ念入りになめなめされちゃうと…おふうっ!」



(つつても、こーいうコトよく知らないからテキトーにやってるだけなんだけどね)

「く クロエちゃん…次は啜えて…先っぽからパクつとお…!」

「あむ…」

「おおおッ！？ ああたたかくて…ぬるっとしてて…」「これは…たまるん！」

「ほれで、ほうふればいいお？」

「く 唾えたまま喋られると…ッ」

「あ えっと…そのまま口の中で舐めたり吸ったりして欲しいかな」

「ブルッ」

あむ



「ふおんなはんひ?」

「ほっ ほーっ! それっ 凄い良いよー!

お口の中でレロレロされて…先っちよだけなのに…も もうイキそ…おおッ!」

もー

レロ

グッ

(なんか、チヨロくないっすか? この人何しても喜ぶような…)

「クロエちゃんのテクニクが凄過ぎて…ホントにもう…おうふっ!」

「す 吸われ…！ おお…おう…それヤバ…あ ああッ！」

（なんか、ビクビクブルブルして、コレ、ヤバいんじゃないの？）

「あのさ…大丈夫なの？ 辛かったら止めた方が良くない？」

「だ 大丈夫だから！ 続けてえッ！」

「あ、ハイ」

「おおおッ！？ も もうイクらうッ！」

ブル

ちゅる

えんぷ

ブル

ブル



「んぶっ…?」

「おほおッ…?」

「おほおッ…?」

「おほおッ…?」

「す 吸いだして…!」

「おほおッ…? す 吸われ…おほおッ…!」

おほおッ…

おほおッ…

おほおッ…



「けほッ けほッ…オエッ」

「まずう…何この味…無いわー」

「こんなエグイ物、遠慮無く人の口にぶちまけるとか訴訟も辞さなめな案件なんだけど」

「ゴメンねクロエちゃん！ 気持ち良過ぎて勢いで出しちゃって…本当にゴメン！」

まずう…

「あ、いや…大丈夫すけど…ちよっとビックリしたただけだし」

「まー、バイト代の為だし、あんま文句は言わない方が良さげかも」

フロー



「それで…この後はどうすんの？ 今ので終わりならおいとまするけど」

「あ、待って！ その…まだ本番をしてないから…で 出来るよね？」

（本番…あーやっぱりやるんすよね。 ま、覚悟はできてるんでいいですケドね）

「まー…それ込みの話だったんで良いけど、男の人って一回出したら終わりって聞いてたんで。

おにーさんはそうじゃない系ってこと？」

フロー

「ああ 僕って結構性欲強いみたいで何回も出来るからね。そそれじゃあ…ベッドに横になってくれるかな？」

へひひ







